

# 「グレートジャーニー北海道」

## ★事業の概要★

### 事業のねらい

十勝岳連峰の縦走登山を通して、青少年が自己を見つめ直し、自信をつけさせるとともに、仲間と協力して困難に立ち向かうことで集団行動への適応と社会性の向上を図る。

### 期 日

平成22年8月8日（日）～14日（土） <6泊7日>

### 会 場

国立大雪青少年交流の家  
十勝岳連峰

### 対 象 者

中学生・高校生以上の青少年  
（課題をもった青少年、登山に興味のある青少年、青少年教育指導者を志す大学生など）

### 参加者数：参加募集人数

16名（参加者内訳：中学生6人、高校生9人、大学生1人）：20名

### 講 師

山本 理人 氏（北海道教育大学岩見沢校准教授）  
戸高 雅史 氏（野外学校 Feel Our Soul 主宰）  
国立大雪青少年交流の家職員

### 日 程

	<午 前>	<午 後>			<夜>			
8/8 (日)		受付	開講式	グループ活動① (アイスブレイク)	集い	夕食	グループ活動② (仲間づくり)	
8/9 (月)	縦走登山に向けて② (パッキング、コース説明)	昼食		縦走登山に向けて③ (野外活動練習)	集い	夕食	グループ活動③ (目標設定)	
8/10 (火) ～ 8/12 (木)	縦 走 登 山							
		昼食	後片付け	入浴・休憩	集い	夕食	入浴・自由	
8/13 (金)	グループ活動④ (野外活動)					夕食	グループ活動⑤ (キャンプファイヤー)	
8/14 (土)	グループ活動⑥ (ふりかえり)	閉講式	解散					

# ★プログラム紹介★



## ①「アイスブレイク」

参加者がお互いを知り、信頼し合う関係づくりができるように、アドベンチャー教育の手法を用いたグループ活動を行いました。



## ②「縦走登山に向けて」

縦走登山に向けて、施設周辺でテント設営や歩行の練習をしたり、グループで話し合いながら団体装備の分担を行いました。



## ③「目標設定」

縦走登山のグループごとに目標やそれぞれの思いを話し合い、それを書いたグループの旗を作りました。



## ④「縦走登山」

十勝岳連峰の山々をめぐる縦走登山を行いました。悪天候により予定より早い下山となりましたが、山の上で過ごした時間は、貴重な体験となりました。



## ⑤「野外活動」

自分たちが歩いた山々を眺めることができる場所でゆったりと過ごしなが、心と体のクールダウンを行いました。



## ⑥「ふりかえり」

最後の夜にたき火を囲みながら、登山のビデオや写真を見たり、星空を眺めたりしながら、活動全体のふりかえりを行いました。

## 企画・運営のポイント

- ① 登山の安全管理を充実させるため、プロの登山家や地元の山岳会員、スクールカウンセラーなどスタッフを充実させた。また、事前踏査を何度も実施するなど、フィールドの把握に努めた。
- ② 参加者が縦走登山という非日常の活動から、日常の生活に徐々に戻っていけるように、心身のクールダウンの時間やふりかえりを重視したプログラム展開にした。

## 事業を終えて(成果と課題)

- ① 参加者の技量や体力を確認するため、荷物を背負っての歩行やテント設営など事前の練習に時間をさき、参加者の観察を行うことで、より細やかな支援と安全管理を行うことができた。
- ② 登山の準備から活動後のふりかえりまで、参加者の心身の状態を細かく観察し、スタッフで共有しながらプログラム運営を行ったため、参加者同士、また参加者とスタッフで十分な信頼関係を構築することができた。
- ③ 自分を見つめ直したり、他者と信頼関係を築くことができたりするなど、登山という自然体験活動がもつ効果を確認することができたので、参加対象を変えたり、登山がもつ別の可能性を探るなど、プログラムのあり方を再考していくことが必要である。

## 今後の方向性

身近なフィールドである十勝岳連峰を活用するため、自然体験活動の一つとして登山を活動の中心にしたプログラム開発は継続していく。